

独立行政法人国立美術館  
東京国立近代美術館

Independent Administrative Institution National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

概要



令和4年度

## ご挨拶

東京国立近代美術館は、皇居のそば、緑豊かな北の丸公園に位置しています。空を指さしているように見える2本の巨大な柱、イサム・ノグチの彫刻「門」が目印です。

当館で言う「近代」は、19世紀末から今日に至るまで、つまり常に最新の時点までを含むもので、日本の近現代美術の流れを世界の潮流の中でたどるコレクションを有しています。このコレクションの展示や、年に数回テーマを定めて開催する企画展、調査研究、そして鑑賞教育事業などにより、美術に親しんでいただける環境を整えております。

令和2年に石川県金沢市に移転した国立工芸館も、地元の皆様のご協力をいただきながら、順調に活動しています。

新型コロナウイルスの蔓延は、美術館にとっても大きな試練でした。当館も、休館を余儀なくされた期間が通算100日を超え、再開後は、人数制限やオンラインでの日時予約制の導入をはじめ、さまざまな感染予防対策を行い、皆様に安心してご来館いただけるよう努めております。一方で、所蔵作品紹介動画やオンラインによる対話鑑賞プログラムなど、新たな活動も加わり、遠方などご来館が難しい方々にも当館を楽しんでいただける機会の拡充にもつながりました。これらの取組を通じて、暮らしに閉塞感がある中においても、美術が理屈抜きで、私たちの心に安らぎやときめき、創造への意欲をもたらしてくれるものであることが確認されたと感じております。

今年、当館は開館70周年を迎えます。新型コロナウイルスの終息と世界平和が心から希求される時代に、より多くの皆様に親しまれる美術館として成長してまいりたいと考えております。

スタッフ一同、皆様のご来館、ご利用を心よりお待ちしております。

令和4年5月

独立行政法人国立美術館  
東京国立近代美術館長  
小松弥生



## 目次

概要	1
東京国立近代美術館 主な活動	2
国立工芸館 主な活動	4
略年表	6
その他	8

# 概要

東京国立近代美術館は皇居に近い東京都千代田区北の丸公園に本館と、石川県金沢市に国立工芸館を有し、広く近現代美術への関心を喚起するための事業を展開しています。

当館は、日本で最初の国立美術館として、昭和27年(1952年)12月1日に中央区京橋に開館しました。かねてより待望されていた、同時代の美術をいつでも見ることのできる国立の展示施設として、旧日活本社ビルを建築家の前川國男氏の設計により改装し、活動をスタートさせました。

その後、所蔵作品の増加と企画展の拡充等により、コレクションの展示が次第に制約されるようになったことから、美術館の移転が検討されていたところ、石橋正二郎評議員より美術館建築の寄附申し入れがあり、その厚意によって、昭和44年(1969年)、千代田区北の丸公園の現在地に、建築家谷口吉郎氏設計による新館が開館しました。また、昭和52年(1977年)には北の丸公園内の旧近衛師団司令部庁舎(重要文化財)に工芸館が開館しました。なお、工芸館は平成28年(2016年)に政府関係機関移転基本方針により、石川県への移転が決定し、令和2年(2020年)2月に移転に向け、東京での活動を終了し、同年10月25日に石川県金沢市に移転・開館しました。

一方、組織としては、東京国立近代美術館は平成13年(2001年)4月1日より、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館を構成する美術館となりました。現在、独立行政法人国立美術館は上記4館に、平成19年(2007年)に開館した国立新美術館、平成30年(2018年)に当館より独立した国立映画アーカイブを加えて、わが国における美術振興の中心的拠点として活動を展開しています。



京橋時代の美術館



北の丸公園時代の工芸館  
現在の名称は「東京国立近代美術館分室」

独立行政法人国立美術館ホームページ <http://www.artmuseums.go.jp/>

## 本館

本館の建築は、長年にわたり多くの方々に親しまれてきましたが、築30年を機に坂倉建築研究所の設計により大規模な増改築が施されました。

展示室の拡張、閲覧サービスのできるアトライブラリの整備、レストランやミュージアムショップの新設、休憩スペースの増設など、鑑賞環境の整備と充実ならびに耐震性の強化を図った工事は、平成13年(2001年)9月に竣工しました。そして平成14年(2002年)1月、記念展「未完の世紀—20世紀美術がのこすもの」をもって、新たな活動を再開しました。

また平成24年(2012年)には開館60周年を迎え、所蔵品ギャラリーの大規模なリニューアルを行いました。

## 国立工芸館

国立工芸館は近現代の工芸・デザイン専門の美術館です。東京の北の丸公園に「東京国立近代美術館工芸館」として開館し、令和2年(2020年)に石川県金沢市へ移転。翌年には館名を「国立工芸館」と改め、工芸文化の発信拠点としての新たなスタートを切りました。

移転に伴い、デジタル鑑賞システムを備えた「工芸とであう」コーナーや、漆芸家・松田権六の工房を移築・復元した「松田権六の仕事場」を常設し、アトライブラリ、ミュージアムショップも新たに設置しました。

建物は明治期に金沢市内に建てられた国登録有形文化財の旧陸軍施設2棟を移築・復元し活用しています。



外観 撮影:上野則宏



外観 撮影:太田拓実

## 展覧会の開催

19世紀末以降の我が国の美術の多様な展開を歴史的に跡づけた所蔵作品展と、様々なテーマや切り口で構成された特別展及び共催展を開催しています。

所蔵作品展「MOMAT コレクション」(所蔵品ギャラリー、4F-2F)では、日本有数の近現代美術コレクションを公開しています。関連する海外の作品を交えながら、19世紀末から今日までの日本の美術の流れを概観できるよう展示しています。重要文化財15点(2点は寄託作品)を含む、13,000点を超えるコレクションの中から毎会期約200点を選び、ほぼ時代ごとに章分けして構成しています。年数回の大きな展示替を行いながら、特定の作家やテーマに沿った特集展示や小企画を開催して、多様な角度から所蔵作品に光をあてています。平成24年(2012年)にはリニューアルを行い、内容、休憩コーナーを含むスペースともにさらに充実しました。

特別展及び共催展は、1階の企画展ギャラリーで特定のテーマに基づいて国内外の美術作品を展示するもので、年3～4回開催しています。



所蔵品ギャラリー 3F「日本画」コーナー



4F 休憩コーナー「眺めのよい部屋」

開催中及び開催予定の展覧会についてはこちら↓  
<https://www.momat.go.jp/am/exhibition/>

過去に行われた展覧会についてはこちら↓  
<https://www.momat.go.jp/am/exhibition/archive/>

## 図書・資料収集

アートライブラリは、国内外の画集、写真集、展覧会カタログ、各種美術参考書などを約15万冊、美術雑誌を約5,000タイトル所蔵しており、一般の方々による閲覧が可能となっています。また、国内の美術図書館が多数参加している美術図書館連絡会(ALC: The Art Library Consortium)に加盟し、同会が提供している美術図書館横断検索(ALC search)(<https://alc.opac.jp/search/all/>)では、当館の所蔵資料も検索することができます。



アートライブラリ

アートライブラリについてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/library/>

## 教育普及活動

企画展にあわせて講演会やシンポジウム、ギャラリートークなどを開催するほか、所蔵作品展でも、解説ボランティアによる毎日の所蔵品ガイドや学芸員によるキュレータートークなどを行っています。学校団体に対しての目的や特性に応じたきめ細やかな鑑賞プログラム、未就学児を含むファミリーに向けたワークショップ、英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」、ビジネスパーソンに向けての鑑賞ワークショップなど、さまざまな対象に向けてのプログラムを提供しています。また、ほとんどのプログラムをオンラインでも行っています。



未就学児とその家族のための「おやこでトーク」

教育普及活動についてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/learn/>

## 調査研究活動

東京国立近代美術館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しています。また、その成果を、展覧会カタログ、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録、活動報告などを通じて発信しています。

調査研究についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/am/research/>

## 作品・画像の貸出

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

また、申し込み制により、当館が所蔵する写真作品を直接閲覧できる「プリントスタディ(写真作品閲覧制度)」を実施しています。

所蔵作品の画像貸出についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/ge/reproduction/>

プリントスタディについてはこちら → <https://www.momat.go.jp/am/collection/printstudy/>

## 美術作品の収集・保管

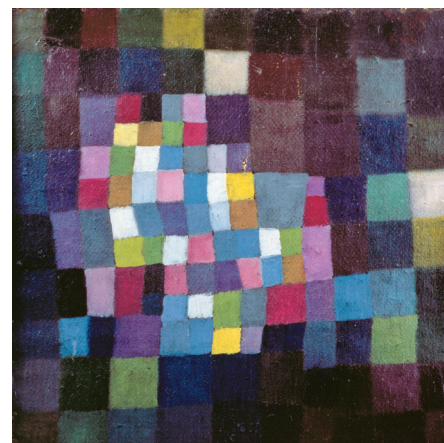
19世紀末から今日まで、100年を超える日本と海外の美術作品を収集しています。現在、日本画、油彩、版画、水彩・素描、彫刻(立体造形)、写真、映像などの各分野にわたって13,000点以上を収蔵しています。

所蔵美術作品数(令和3年度末現在)

種別	点数
日本画	855
油彩その他	1,292
版画	3,094
水彩・素描	4,136
彫刻(立体造形)	483
書	21
写真	2,973
映像	76
美術資料	687
合計	13,617



上村松園《母子》1934年(日本画)  
(2011年6月27日重要文化財指定)



パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽象》1925年(油彩)

所蔵作品についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/am/collection/>

## 展覧会の開催

所蔵作品展、特別展または共催展を、年4～5回ほど開催しています。

所蔵作品展では、陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたる4,000点以上の所蔵作品の中から、100点前後の作品を選び、歴史や特定のテーマに沿った展示を行っています。また、東京国立近代美術館の所蔵作品展「MOMATコレクション」やギャラリー4での特集展示においても、定期的に工芸・デザイン作品を展示しています。

特別展及び共催展では、特定のテーマに基づいて国内外の工芸・デザイン作品を展示しています。



エントランス 撮影:太田拓実



松田権六の仕事場 撮影:太田拓実

開催中及び開催予定の展覧会についてはこちら↓  
<https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/>

過去に行われた展覧会についてはこちら↓  
<https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/archive/>

## 図書・資料収集

国立工芸館アートライブラリでは、主に近・現代の工芸・デザインに関する作品集、展覧会カタログ、各種美術参考図書などを約30,000冊、美術雑誌を約1,500タイトル所蔵しており、一般の方々の閲覧に供しています。

アートライブラリについてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/visit/library/>



国立工芸館アートライブラリ 撮影:エス・アンド・ティ・フォト

## 教育普及活動

新型コロナウイルス感染症対策を一つの契機として、これまでのプログラムの経験を踏まえながら、多様な鑑賞機会の提供を検討し、講演会や対話型鑑賞、また様々なワークショップをオンラインで提供しています。また作家の工房訪問や「タッチ & トーク」等のコンテンツを日本語と英語で制作して配信。今後は対面型とオンライン配信の両面で教育普及活動を進める予定です。

教育普及活動についてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/learn/>



英語タッチ&トーク(オンライン配信)

## 調査研究活動

国立工芸館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しており、その成果を、東京国立近代美術館と協同し、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録等を通じて発信しています。また、特別展及び共催展の開催に伴い、展覧会カタログを出版しています。

## 作品・画像の貸出

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

所蔵作品の画像貸出についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/ge/reproduction/>

## 美術作品の収集・保管

国立工芸館では、明治以降今日までの日本と海外の工芸及びデザイン作品を収集しています。特に、多様な展開を見せた戦後の作品の収集に重点を置いています。陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたって4,000点以上を収蔵しています。

所蔵美術作品数（令和3年度末現在）

種別	点数
陶磁	1,095
ガラス	200
漆工	377
木工	88
竹工	51
染織	513
人形	108
金工	455
その他の工芸	13
工芸資料	110
工業デザイン	192
グラフィック・デザイン	821
合計	4,023



鈴木長吉《十二の鷹》(部分) 1893年(金工)  
(2019年7月23日 重要文化財指定)



板谷波山《葆光彩磁牡丹文様花瓶》1922年(陶磁)

所蔵作品についてはこちら → <https://www.momat.go.jp/cg/collection/>

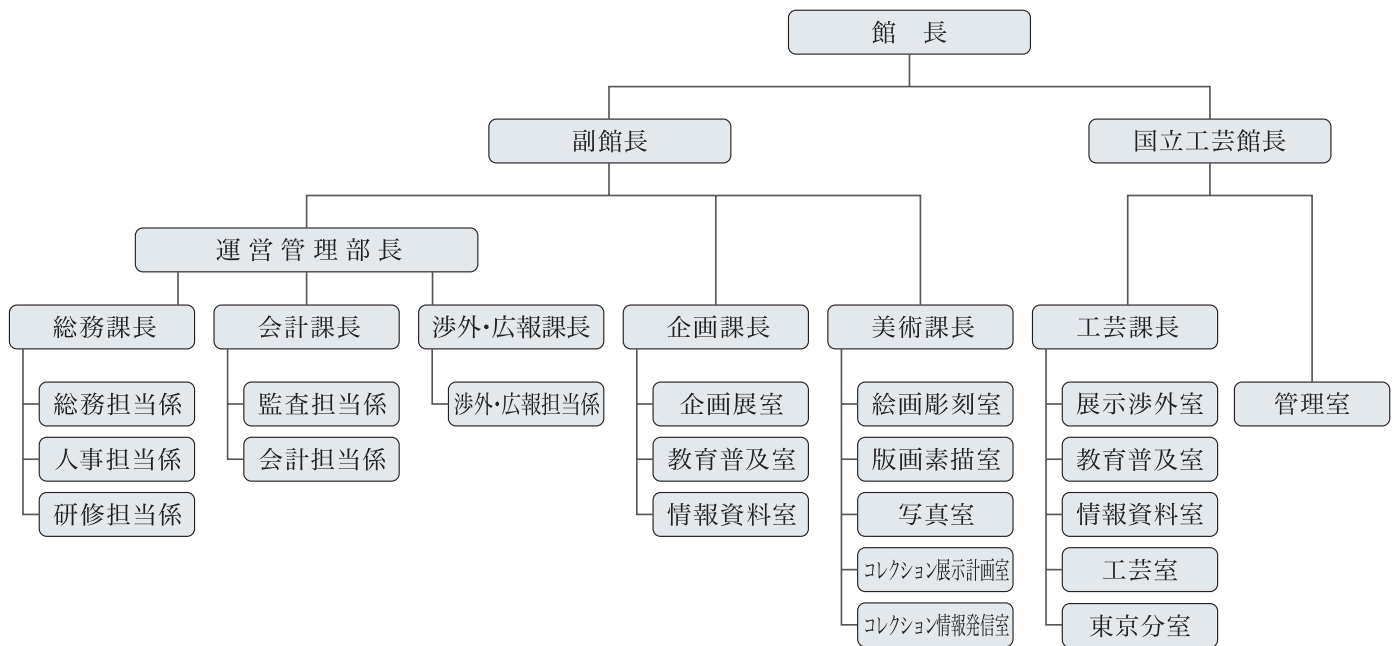
# 略年表

昭和26年(1951年)		文部省予算に国立近代美術館設置のため1億円が計上されるとともに、文部省に国立近代美術館設置準備会が置かれた。
	12月20日	国立近代美術館設置準備会は本館開設について文部大臣に答申した。
昭和27年(1952年)	3月	日活本社ビルを8,300万円で購入し、1,700万円で建築家前川國男の設計により、改装工事を行うことになった。
	6月6日	文部省設置法が改正(昭和27年法律第168号)され国立近代美術館が設置された。
	10月1日	初代館長に岡部長景(元文部大臣)が任命された。
	12月1日	開館。これを記念して第1回展「日本近代美術展：近代絵画の回顧と展望」(12月1日～28年1月25日)を開催した。
昭和28年(1953年)	4月1日	「友の会」が発足した。
昭和38年(1963年)	3月1日	文部省設置法施行規則の改正(昭和38年文部省令第2号)により国立近代美術館京都分館が設置された。
昭和41年(1966年)	1月11日	国立近代美術館の移転の候補地を探していたが、閣議了解「皇居周辺北の丸地区の整備について」により、同地区に移転することが可能となった。
昭和42年(1967年)	1月27日	石橋正二郎評議員から東京都千代田区代官町2番地に、鉄筋コンクリート建地上3階、地下2階、予定価額約12億円の建物を新築・寄贈したいとの申し出があった。
	5月31日	文部省設置法(昭和24年法律第146号)が改正(昭和42年法律第17号)され、6月1日から国立近代美術館は、東京国立近代美術館となり、国立近代美術館京都分館は、独立して京都国立近代美術館となった。
昭和43年(1968年)	6月15日	文部省設置法が改正(昭和43年法律第99号)され、東京国立近代美術館は文化庁の附属機関となった。
昭和44年(1969年)	4月1日	文部省設置法施行規則が改正(昭和44年文部省令第13号)され東京国立近代美術館にフィルムセンターが設置された。
	5月7日	石橋正二郎評議員の寄贈による東京国立近代美術館の竣工寄贈式が行われた。
	6月11日	常陸宮同妃両殿下をお迎えして、新館の開館式を行った。これを記念して「現代世界美術展：東と西の対話」(6月12日～8月17日)を開催した。
昭和45年(1970年)	3月	終戦時アメリカに接収された絵画153点が送還(無期限貸与)された。
昭和46年(1971年)	4月	試験的に実施してきた無料観覧日を、今後も特別展を除き、毎月第1日曜日に継続実施することとした。(令和3年(2021年)度から中止)
昭和47年(1972年)	7月1日	小林行雄が館長を辞任し、後任には岡田譲(前文化庁文化財保護部文化財鑑査官)が任命された。
	9月12日	千代田区北の丸公園所在の旧近衛師団司令部庁舎は、重要文化財として指定のうえ東京国立近代美術館分室として活用をはかるため存置すべき建物に含めるとの閣議了解がなされた。
	10月2日	旧近衛師団司令部庁舎が、重要文化財に指定された。
昭和48年(1973年)	1月8日	旧近衛師団司令部庁舎(大蔵省普通財産)は、東京国立近代美術館分室として所管換され、文化庁は、同建物の文化財保存修理工事に着手した。なお、同工事は昭和53年3月に完了した。
昭和52年(1977年)	4月18日	文部省設置法施行規則が改正(昭和52年文部省令第10号)され、事業課は美術課に名称変更し、新たに工芸課が設置された。
	11月14日	文部大臣、文化庁長官臨席のもとに工芸館開館式を挙行了。これを記念して「現代日本工芸の秀作」展(11月15日～53年3月19日)を開催した。
昭和56年(1981年)	3月6日	昭和54年3月17日以来本館前庭地下に建設中であった新取蔵庫(990㎡)が竣工した。なお、工事中、先土器時代以降近世に至る遺跡が発見され、調査委員会を設けて発掘調査を行った。
	4月	試験的に実施してきた夜間開館を、夏季の毎週金曜日を実施することとした。
昭和57年(1982年)	5月21日	当館開館30周年にあたり、所蔵作品による記念展を次のとおり開催した。 ・近代日本の美術1945年以後(5月21日～7月11日、本館) ・近代日本の美術1945年以前(9月18日～10月31日、本館) ・近代日本の工芸(5月21日～7月11日、工芸館)
昭和59年(1984年)	7月1日	文部省組織令が改正(昭和59年政令第227号)され、東京国立近代美術館は、文化庁の施設等機関となった。
昭和62年(1987年)	4月	「友の会」を休会し、今後の運営形態、存続等について検討することとなった。
	11月3日	教育・文化週間の一環として、同日の展覧会を無料観覧日とし、以降継続して実施することとした。
平成7年(1995年)	3月31日	昭和62年度より実施していた美術館の大規模改修工事(外壁、空調設備、電気設備等)が終了した。
平成10年(1998年)	6月17日	平成10年度補正予算(第1号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築工事に関する経費が計上された。



	12月11日	平成10年度補正予算(第3号)で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成11年(1999年)	7月12日	東京国立近代美術館(本館)増改築工事のため、休館となる。
	12月9日	平成11年度補正予算で、東京国立近代美術館(本館)増改築に伴う本館改修工事等の経費の一部が計上された。
平成13年(2001年)	4月1日	京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館の一機関となる。当館本館内に国立美術館本部が置かれる。
	9月26日	平成11年8月5日に着手した本館改修工事が完了し、9月26日に文部科学大臣、大臣政務官及び文化庁長官臨席のもと竣工式を挙行政した。
平成14年(2002年)	1月16日	リニューアル・オープン記念展「未完の世紀:20世紀美術がのこすもの」を開催した。また、同展覧会から夜間開館を通年で実施することとなった(本館)。
	2月16日	常設展の小中学生の観覧料金を無料とした(本館は3月26日から実施)。
	8月29日	天皇后陛下が「小倉遊亀展」をご観覧のため、行幸啓された。
	10月12日	当館開館50周年にあたり、本館で「コレクションのあゆみ」展を開催した。
平成15年(2003年)	4月1日	高校生料金の低廉化を実施した。
	5月23日	本館で、解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」による所蔵品ガイドを開始した。
平成16年(2004年)	6月9日	工芸館で、ボランティアガイドスタッフによるガイド「タッチ&トーク」を開始した。
	9月10日	天皇后陛下が「琳派RIMPA」展をご観覧のため、行幸啓された。
	10月1日	東京国立近代美術館賛助会員(MOMATメンバーズ)制度が発足し、東京国立近代美術館の事業に賛同する団体に向けて入会受けを開始した。
平成17年(2005年)	7月5日	天皇后陛下が「小林古径展」をご観覧のため、行幸啓された。
平成18年(2006年)	5月3日	皇后陛下が「藤田嗣治展」をご観覧のため、行啓された。
	12月6日	皇后陛下が「ジュエリーの今:変貌のオブジェ」展をご観覧のため、行啓された。
	12月12日	所蔵作品展の共通観覧券「MOMATパスポート」の販売を開始した。
平成19年(2007年)	2月16日	天皇后陛下が「人間国宝 松田権六の世界」展をご観覧のため、行幸啓された。
	10月6日	工芸館開館30周年にあたり、本館講堂で開館30周年記念式典を行い、工芸館で「工芸館開館30周年記念展」を開催した。
	10月19日	皇后陛下が「平山郁夫:祈りの旅路」展をご観覧のため、行啓された。
平成20年(2008年)	2月26日	所蔵作品展及び特別展の高校生及び18歳未満の観覧料金を無料とした(本館は3月29日から、フィルムセンターは4月4日から実施)。また、「国際博物館の日」の普及広報のため、同日の展覧会を無料観覧日とし、以後継続して実施することとなった。
平成21年(2009年)	9月4日	皇后陛下が「ゴッゲン展」をご観覧のため、行啓された。
平成22年(2010年)	4月11日	皇后陛下が「生誕120年 小野竹喬展」をご観覧のため、行啓された。
	9月28日	皇后陛下が「上村松園展」をご観覧のため、行啓された。
平成24年(2012年)	10月16日	当館開館60周年にあたり、本館で「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」を開催した。
平成25年(2013年)	1月10日	天皇后陛下が「美術にぶるっ!ベストセレクション 日本美術の100年」をご観覧のため、行幸啓された。
平成26年(2014年)	10月8日	天皇后陛下が「菱田春草展」をご観覧のため、行幸啓された。
	12月2日	東京国立近代美術館友の会(MOMATサポーターズ)制度が発足した。
平成27年(2015年)	9月12日	天皇后陛下が「No Museum, No Life? これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」をご観覧のため、行幸啓された。
平成28年(2016年)	1月1日	「MOMAT支援サークル」が発足した。
	4月30日	皇后陛下が「安田靉彦展」をご観覧のため、行啓された。
平成29年(2017年)	3月25日	「美術館の春まつり」を開始した。
平成30年(2018年)	4月1日	東京国立近代美術館フィルムセンターは、独立して国立映画アーカイブとなった。
	5月13日	天皇后陛下が「生誕150年 横山大観展」をご観覧のため、行幸啓された。
令和2年(2020年)	2月28日	東京国立近代美術館工芸館が、移転に向け、東京での活動を終了した。
	10月25日	東京国立近代美術館工芸館が、石川県金沢市に移転・開館した。

組織図



会員制度のご案内

当館では、東京国立近代美術館(MOMAT)をもっとお得に楽しみたい皆さまに、また、MOMAT をご支援くださる皆さまに、以下のメンバーシップ・プログラムをご用意しています。

《個人向け》

- 賛助会(MOMATメンバーズ) 会費:10,000円～300,000円 有効期間:1年間
- 友の会(MOMATサポーターズ) 会費:5,000円 有効期間:発行日より1年間
- MOMATパスポート 1,200円 有効期間:最初のご利用日から1年間

《企業向け》

- MOMAT支援サークル

詳しくはこちら→<https://www.momat.go.jp/ge/support/>

施設概要

本館	土地	敷地面積	6,107㎡(環境省及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から使用承認)
		構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 地下1階
	建物	建物面積	4,511.62㎡
		延床面積	17,192.6㎡(展示スペース4,459.0㎡ 収蔵スペース1,337.8㎡ その他11,395.8㎡)
分室	土地	敷地面積	4,512.72㎡(環境省から使用承認)
		構造規模	煉瓦造 地上2階
	建物	建物面積	929㎡
		延床面積	1,858㎡
国立工芸館	構造規模	木・鉄筋コンクリート造 地上2階 地下1階	
	建物(※)	建物面積	1,427.23㎡
	延床面積	3,072.22㎡(展示スペース703.76㎡ 収蔵スペース484.48㎡ その他1,883.98㎡)	

(※)石川県及び金沢市から無償借受

## 利用案内

### 本館 ◎観覧料

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	500円	250円	無料
	団体	400円	200円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ <a href="https://www.momat.go.jp/am/exhibition/">https://www.momat.go.jp/am/exhibition/</a>			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人が無料になります。

◎開館時間 午前10時～午後5時 [入館は閉館30分前まで] ※開館時間は変更となる可能性があります。

◎休館日 月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館]、展示替期間、年末年始

ご利用案内についてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/visit/>

年間スケジュールについてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/2022/>

### ◎所在地・問合せ先

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

TEL 03-3214-2561(代表)

FAX 03-3214-2577(運営管理部) / 03-3214-2576(企画課・美術課)

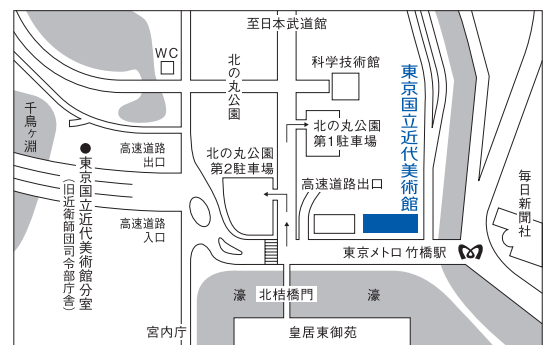
東京メトロ東西線「竹橋駅」下車(1b出口)徒歩3分

詳しくはこちら→ <https://www.momat.go.jp/am/visit/>

公式ホームページ→ <https://www.momat.go.jp/am/>

公式twitter→ [https://twitter.com/MOMAT\\_museum](https://twitter.com/MOMAT_museum)

公式facebook→ <https://facebook.com/momat.pr>



### 国立工芸館 ◎観覧料

区分		一般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方／65歳以上の方
所蔵作品展	個人	300円	150円	無料
	団体	250円	70円	無料
特別展・共催展	展覧会ごとに異なります。詳しくはこちらにてご確認ください。→ <a href="https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/">https://www.momat.go.jp/cg/exhibition/</a>			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人が無料になります。

観覧料等についてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/visit/faq/#section1-2>

◎開館時間 午前9時30分～午後5時30分 [入館は閉館30分前まで]

開館時間等についてはこちら→ [https://www.momat.go.jp/cg/this\\_month/today/](https://www.momat.go.jp/cg/this_month/today/)

◎休館日 月曜日 [月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館]、展示替期間、年末年始

年間スケジュールについてはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/2022/>

### ◎所在地・問合せ先

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2

TEL 076-221-2020(代表) FAX 076-221-1969

JR金沢駅兼六園口(東口)から

【路線バス】◎3番乗り場:18系統に乗車(約12分)、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分 ◎7番乗り場:どの系統でも乗車可(約11分)、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分 ◎6番乗り場:乗車(「柳橋」行を除く)(約12分)、「出羽町」下車徒歩5分

詳しくはこちら→ <https://www.momat.go.jp/cg/visit/>

公式ホームページ→ <https://www.momat.go.jp/cg/>

公式twitter→ <https://twitter.com/ncm2020>

公式facebook→ <https://facebook.com/ncm2020.pr>

公式Instagram→ <https://www.instagram.com/nationalcraftsmuseum/>



#### MOMAT 支援サークル (MOMAT Corporate Partnership)

東京国立近代美術館は、企業による美術館支援制度を設け、当館の様々な活動にご協力をいただいております。パートナー企業の皆様には、社員証提示による所蔵作品展無料見学などを通し、美術館をお楽しみいただいております。

パートナー企業(令和4年5月現在)

〈プラチナパートナー〉

 **木下グループ** LUXURY CARD™

 **SMBC** **三井住友銀行**  **東海東京証券**



〈ゴールドパートナー〉

 **三菱商事** **DNP** **大日本印刷** **AVANT**

 **株式会社 オオバ**

〈シルバーパートナー〉

 **鹿島建物**  **Marubeni**  
丸紅株式会社  **JEOL** **日本電子株式会社**

**SEIKO**  **MS&AD** **三井住友海上**  **Takara Leben Group**

 **月島倉庫株式会社**  **きらぼしシステム株式会社**



The National Museum of Modern Art, Tokyo